アイランドシティ（あいたか橋）より初日の出を望む

書：杉島　直樹 保護司　　写真：今村　利弘 保護司

東風（こちち）

発行責任者
福岡市東区箱崎１－32－１
東保護区保護司会
会長　藤野重久
編集　総務部

『尊敬』と『連携』

東警察署長　植木　正一

新年明けましておめでとうございます。令和３年９月７日付けで東警察署長になりました植木です。東警察署勤務は初めてですが、安全・安心なまち東区の実現に向けて尽力していきますので、よろしくお願いいたします。

東保護区保護司会の皆様には、平素から更生保護活動にご尽力をいただくとともに、少年補導をはじめとする警察活動各般に亘り、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、現下の犯罪情勢は、今年も刑法犯認知件数が減少傾向にありますが、ニセ電話詐欺被害や交通事故死者数が昨年より増加しているほか、児童虐待事案も高水準で推移しています。東警察署は、ニセ電話被害防止対策としまして、被害防止電話機、通称「まっ太フォン」の無料貸し出しを、交通事故防止対策としまして、通学路等における交通取締りを、児童虐待事案への対応としまして、関係機関との緊密な連携による児童の安全確保対策等を行っており、引き続き工夫を凝らした予防・検挙活動を行ってまいります。

ところで、私の忘れられない言葉の中に「非行少年ではなく不幸少年」があります。以前、部下から言われた言葉です。罪を犯した少年らの境遇は、犯罪に走ってもおかしくない生活環境にいた者が大半で、家庭での育成が期待できない中、その不幸な少年らを立ち直らせるのは、関係機関が連携した社会しかない、と今は強く思っています。

これからの日本は、人口減少・高齢化、情報化・グローバル化が進んでいきます。益々、一機関だけで対応できる事柄は少なくなっていくものと思います。関係機関それぞれが、仕事の押し付け合いではなく、それぞれの機関の業務をよく知り、尊敬し、そして連携できる部分を合理的かつ効率よく推進していくことが益々大事になってくると考えます。保護司会の皆様には、警察活動に疑問があれば遠慮なくご質問やご意見を言っていただき、引き続きのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

皆様の今後益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって
一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え犯罪や非行の予防に努めます。
一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

第71回「社会を明るくする運動」東区大会

犯罪予防活動部　副部長　疋田　敏明

令和３年７月２日、第71回「社会を明るくする運動」東区大会が、千早駅前の「なみきスクエアホール」にて開催されました。

令和２年度は、新型コロナ感染症の影響でイベントは自粛致しましたので２年ぶりの開催となりました。

本大会の準備活動が活発になる５月の連休明けから「緊急事態宣言」が発令され、当日は「まん延防止等重点措置」の中での開催となり、様々な感染症対策を講じ、時間を短縮して実施致しました。

感染防止対策で、前後左右に空席を一つずつ設置し、それでも１１４名もの参加を頂いたことは大変嬉しく思っています。セレモニーは実行委員長の谷口泰二東区長をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、厳かな雰囲気の中で進み、イベントでは博多高等学校の吹奏楽部・和太鼓部の皆さんによる演奏がホール全体に響き渡り大変盛り上がりました。

千早駅構内での活動は自粛し、例年のような広報活動はできませんでしたが、来年度は「なみきスクエアホール」を埋め尽くすほどの参加者の下で開催できればと胸を膨らませております。

本大会にご尽力・ご協力いただきました多くの皆様のお陰で成功裏に終えることができましたことを感謝申し上げます。

例年、千早駅前で行っていましたが、今回はホールでの演奏。迫力のある和太鼓です。

木管楽器と金管楽器がパーカッションと一体となり、素敵な演奏でした。

更生ペンギン"ホゴちゃん"も一緒に！

研修旅行に参加して

―出逢いに感謝頑張ります―

第六分区　安河内　浩巳

紅葉には少し早い時期の10月27日・28日、久しぶりの遠出が今回の研修旅行となりました。素晴らしい天候に恵まれ、少し歩いただけで汗ばむくらい。

まずは、完全復旧には20年かかるとも言われている熊本城を視察。次は今回のメインでもある大野勝彦美術館です。両腕を不慮の事故で失うも「ありがとう」をキーワードに、前向きに生きている様はとても素晴らしく、人々の心を打つ「絵」と「詩」に更に感動しました。「出逢いに感謝頑張ります」の言葉を頂きました。

さて宿に到着。温泉に浸かり、美味しい料理に、人生の先輩でもある先生方の活力に圧倒される一幕も有り、楽しませて頂きました。「妖精の舞い」はとても新鮮でした。

翌日、大観峰は冷たい風が吹き上着が必要なくらい。間近に見るカルデラの様子は壮大で神秘的でした。九重の登山道入口付近は、紅葉間近の雰囲気が漂い秋を感じたところです。次は九重の〝夢〟大吊橋です。ここには「震動の滝竜神伝説」があります。老いた竜が不老不死のために里人を苦しめる…。このような話が伝わるのも納得するこの場所に、日本一の吊り橋はまさに神秘そのものだと思いました。

最後に、旧藏内邸（国指定名勝・旧藏内氏庭園）です。豪華かつ繊細な建築意匠を見学。楽しいだけではなく、人生の勉強になりました。

考え感じさせられた本当に充実した研修旅行でした。ありがとうございました。大野勝彦氏から頂いた言葉の様に出逢いを大切にし、保護司の活動をしていきたいと思います。

大野勝彦美術館にて

第71回「社会を明るくする運動」作文コンテストについて

犯罪予防活動部長　髙田　芳彦

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。昭和26年に始まり、本年で71回目を迎えました。

作文コンテストは本運動の一環として、小・中学生の皆さんに、犯罪や非行などに関して考えたことや感じたことを作文に書いてもらうことを通して、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。本コンテストは平成5年から始まり、本年で29回目となります。

東保護区保護司会では東区内の小・中学校へ依頼するのですが、昨年度はコロナ禍の中で自粛せざるを得ませんでした。しかし本年度の29回作文コンテストは学校側の協力で大いに助けられました。

ある小学校では、題材・テーマを細かく分類して期間を設け意味を理解させる教育をしてくださったそうです。ほんの一例ですが①あいさつ②清掃③いじめ・誹謗中傷④ネットワーク（書き込み・SNS）⑤犯罪・非行⑥コミュニケーション⑦感謝の気持ち・助け合い、などです。先生方がこのように指導してくださることには頭の下がる思いです。ただ一方、小学生の保護者からは、題材が大きすぎる、難しいとの声が上がっている事も否定できません。

そんな中ではありますが、作文コンテストに関する理念と指針に基づき相互理解のもとに、東区では小学校29校2522作品、中学校13校2093作品という多くの作品を応募していただくことができました。これも一重に東区の小・中学校の生徒の皆さん、先生方、そして保護司の熱意だと感じています。本当に御協力ありがとうございました。

【東保護区保護司会　推薦作品】

小学生の部

学校名・学年	氏名	題名
香住丘小学校６年	梶原　咲希	未来へ共に歩む
美和台小学校５年	末安　あみ	社会を明るくするために
東箱崎小学校６年	赤星　陽菜	あたたかい心のバトン

中学生の部

学校名・学年	氏名	題名
和白丘中学校１年	米光　美心	社会を明るくするために私ができる事
和白丘中学校２年	浦川　直也	つながるあいさつ
和白中学校　３年	永井　笑美	子ども達に未来を

未来へ共に歩む

香住丘小学校六年　梶原　咲希

私はこの作文に、何を書けばよいのか分からなかった。きれい事だけを並べ、実際には行動にもできないことを、ただ書かなければならないから書く。それが嫌だった。だから、よく考えてみた。実際に今私ができることを。

犯罪を犯して、罪をつぐなって町に戻ってきた人がいたとしよう。私たちはどうするべきなのだろうか。町から追い出すようなことをしてしまってよいのか。私は父に聞いてみた。父は、

「同じことを自分の大切な人にできる？」

と私に言った。私はそこで、気付かされた。暗やみの底から、自分の力で必死で頑張ってきた人が、もし、自分の大切な人だったら、同じことができるだろうか。私たちがその頑張りをかき消すようなことをして、本当によいのだろうか。それよりも、一緒に手をとり、共に歩んでいくことが大切だと私は思う。それは決して簡単なことではない。それでも、共に歩んでいけばその人はもう二度と犯罪を犯さないだろう。

では具体的にはどういうことをすればよいのか。町のみんなが、共に歩んでいくためには、あいさつが必要だと思う。あいさつは、されて嫌な人なんていない。

「おはようございます。こんにちは。こんばんは。」

この言葉さえあれば、町のみんなが仲良くなる。仲良くなれば生活が楽しくなり、こ独を感じにくくなる。そうすれば、犯罪は起きなくなる。あいさつをすれば、共に歩んでいくことができる。

あいさつをするときはたくさんある。例えば回覧板を渡すとき。他にも、買い物に行ったとき、道で会ったとき、花に水やりをしているときなど、たくさんある。あいさつなら、小学生でもできる。難しいことでなくても、できることはある。

私はこの作文を書いていて、なぜ先生達が書かせたのかが分かった。考えてほしかったのだと思う。自分達にできることを、自分なりに考えてほしかった。私はこの時間で、自分にできることをたくさん考えた。きれい事ではなく、実際にできることを。これを、書いて終わりにはしたくない。行動にうつすまでは終わらない。行動にうつして初めて、この作文を書き終わったと言える。

「あの作文、今日書き終わったよ。」そう言える日が来るまで、自分のできることを精いっぱい、頑張っていきたいと思う。

社会を明るくするために私ができる事

和白丘中学校一年　米光　美心

「犯罪をなくすって、具体的に何すればいいんかなあ。」

日本や世界の犯罪を特集していたテレビを見ながら思いついた疑問を、私はぽろっと口にした。すると、後ろで聞いていた母が、こう答えた。

「掃除やない？」

掃除？一体どういうことだろう？私が不思議に思っていると、母は続けて言った。

「綺麗な場所や居心地のいい場所では人は悪いことをしようとする気にはならないと思うよ。」
それを聞いた私は、はっ、とあることを思い出した。
小学五年生の夏休みに家族で福井の永平寺というお寺に行った事があった。お寺に一歩踏み入れた時の凛としたたずまいと何とも言えない心地よさに感動した。そのお寺では、掃除は「動の座禅」といい、修行僧の方は黙々と真剣に掃除をされていた。床はピカピカに磨かれ、ほこり一つ見当たらない空間が作られていた。掃除を通して自分を見つめるとは、その時の私には衝撃的だった。壁にこんな言葉が貼ってあるのが目に留まった。

「はきものをそろえる」
はきものをそろえると　心もそろう
心がそろうと　はきものもそろう
ぬぐとき　そろえておくと
はくとき　心がみだれない
だれかが　みだしておいたら
だまって　そろえてあげよう
そうすれば

世界中の人の心もそろうでしょう
一年中、この言葉の教えで毎日行われる掃除のおかげで、ほこり一つ、髪の毛一本も落ちていないお堂を見て私は、驚き、感心し、日頃の自分の掃除を反省したのだった。確かに、そこでは何もかもが神聖なものに見え、自然と自分の中の悪い部分がなくなっていく気がしていた。そういう気持ちになったのは、お寺という神聖な場所だったことのほかにも、想像を超える清潔さのせいもあったと思う。
また、ディズニーランドは日本で一番人気のテーマパークであると書かれた本を読んだことがあるが、なんとオリエンタルランドがこだわりを持って取り組んでいるのはパーク内の清掃だということを知り驚いた。パーク内の清掃を徹底し、どこで写真をとってもごみが写らず、赤ちゃんが床を歩いても安全な場所を目標にしているそうだ。だから、ディズニーランドに行った人は遊んでいるときも楽しいし、帰ってから写真を見返すときにまた行きたいと感じるのだという。楽しい場所、居心地のいい場所では笑顔が絶えない。居心地がいいからまた行きたくなる。安心安全は深い考えの上で作られているということに気づいた。
一般的に、犯罪が起きやすい場所というのは、きっとその場所も汚くなっているのではないだろうか。その場所で悪い心がたまってしまった人が発散のため、犯罪を犯し、その場所自体がどんどん暗く、汚くなり、新しい犯罪者をつくりだしてしまう。そんなルーティーンの上に犯罪というものは発生しているのでないか。そんな悪循環をとめるためにも、その場所自体をきれいで、清潔なものにしていくことが大事だと私は思う。私の住んでいる町内では、一年に二回、大掃除をしている。掃除をするのは自分の家の周りだけでいいのだが、町内に住む人みんなでするため、自然と町内全体が綺麗になっている。まずは身近なところ、自分の部屋や家の中を綺麗にしていくところから始めたい。学校での掃除も足元を見て、自分から学校をきれいにしていこうという気持ちですれば、それが学校、地域に広がっていき、犯罪の起きない、おだやかな社会へとつながっていくと思う。

「少年補導の日」街頭パトロール

第三分区　永島　和仁

10月８日午後８時、東警察署少年課・少年補導員・学校職員・ＰＴＡ等各種団体の方と共に、八田のサニー駐車場に集合しました。昨年は中止だったので、２年ぶりの開催です。今回はコロナの緊急事態宣言明けということもあり、１００人近くの参加者でした。

まず東警察署少年課の方から挨拶があり、その後、八田コースと多々良コースに分かれてのパトロールです。公園や駅周辺、危険な場所等を重点的に見て回りました。その中で、自転車の無灯火で声掛けをすることもありましたが、その他不審者等で気付いたことはなく無事終了することができました。
東区の「少年補導の日」街頭パトロールは基本的には年に11回行われます。しかし、昨年度と今年度は、街頭活動とはいえコロナ感染拡大の観点から、何度か中止いたしました。
来年度はコロナが落ち着き、11回のパトロールができることを期待しています。

ドキュメンタリー映画「記憶」からの気づき

～第71回社会を明るくする運動 福岡市講演会・上映会に参加して～

第1分区　高木　建次

10月23日、福岡市保護司会連絡協議会の主催で、上映会・講演会が開催されました。
映画を観て、少女たちの犯罪を犯す一因が、育ってきた家庭環境や関わりのあった人たちにあるのだと再認識させられました。少女たちにもう少し親身に寄り添える親や友人、心を開ける相手が近くにいたら違っていたのではないかと感じています。女子少年院での矯正プログラムと法務教官による温かい指導で変わっていく少女でしたが、退院後の環境に馴染めず、上手く社会生活を送ることの困難さが伝わりました。
又、講演会では色々な場面に遭遇されたパネラーの方々の生のお話が聞けて、とても感銘を受けました。
今回の映画と講演により、対象者本人と共に周りも変わるよう、更生を手助けしていくべきだと、保護司としての環境調整サポートの大切さを感じました。今の自分がやれるアクション、この社会の一員としての役割を熟考し、明るい社会作りへ繋げていきたいと思っています。

シリーズ 多機関連携を目指して 14

協力雇用主との連携

協力組織部長
宮﨑　雅敏

平成22年当時の東保護区保護司会松本多喜男会長の音頭の下に「協力雇用主会」を東保護区保護司会で設立しようということになり、いつの間にか私まで巻き込まれることになりました。

協力雇用主の開拓を命じられましたが、さて、地元事業主にはどのようにして協力をお願いするか、手探り状態のまま足を運ぶ事になりました。再犯防止には、就労の安定、それを支える協力雇用主が不可欠である旨説明しますが、協力雇用主の必要性は理解してもらえたものの、なかなか良い返事がもらえませんでした。しかし、熱意が伝わったのか、その中でも「自分たちでいいなら喜んでなります。」との返事を得ることができ、保護観察所を始め数社の協力雇用主と保護司参加のもと、第1回目の協力雇用主会を開催することが出来たのです。

その後、毎年「協力雇用主様と保護司との連絡協議会」として開催する様になりました。回を重ねるごとに雇用主も増え親近感が増す中で雇用主から「対象者の依頼がない」「対象者を受け入れても一日で辞めてしまう」等の不満が出るようになりました。それに対して、長期間頑張って就労している対象者等から、〝就労している事業所に勤めた動機〟〝なぜ頑張れるのか〟〝未来の目標〟等々を同協議会開催時に発表してもらうなど、観察所、協力雇用主、保護司会が一体となって解決策を協議しています。私も暇を見つけては企業訪問をやっていますが、頑張っている対象者を見るとうれしくなります。

現在福岡県の協力雇用主数は１０７６社、市内では３３２社、東区で83社と、理解を示してくれる雇用主の数が徐々に増えている事嬉しい限りです。これからも、東保護区保護司会においてもこの協議会を益々充実させていきたいと思っています。

令和元年11月30日　福岡リーセントホテルにて

サポートセンターだより

総務部長　田中　清実

6月17日、東保護区保護司会事務所（サポートセンター）に奈良少年院診療所長・中野温子さん、福岡市博多区の協力雇用主・中溝茂寿さん、中央保護区保護司・廣末登さんの3人が来訪されました。

今回の目的は、当保護司会の協力組織部長である宮崎雅敏保護司が、中溝さんと罪を犯した者の雇用について情報交換をする予定でしたが、奈良県から中野さんが来福されたので、交えて行うことになったのです。また廣末保護司は、以前福岡県更生保護就労支援事業所長をされ、雇用主の方と多くのコミュニケーションをとり就労支援に努められていたので参加いただきました。

当保護司会からは、宮崎保護司、総務部長である田中保護司、そして総務副部長の永島保護司が参加しました。

中野さんからは、「少年院で院生から相談を受けるが精神的な観点からの内容が多い」ということでした。中溝さんからは「協力雇用主として未成年を雇用したが、成人になっても継続して受け入れている者もいる。雇用したもののすぐに辞めた者もいて、うまくいく時もあればそうでない時もあり、難しさを感じる」など未成年者を就労した時の忍耐の話、成人を雇用したものの騙され苦労した話、しかし頑張っている者もいて遣り甲斐もある話など体験談をいただきました。

更生保護に携わる方々がこのように再犯防止に努められており、大いに参考になる時間だったと思います。

福岡県更生保護功労者顕彰式典

令和３年11月17日、「あいれふ」において顕彰式典が開催され、東保護区からは次の方々が表彰されました。

◎法務大臣表彰
疋田敏明

◎全国保護司連盟理事長表彰
草野崇敏　堺　知行

◎九州地方更生保護委員会委員長表彰
小田哲也　古閑幹子　西村義之
秦　隆敏　濱﨑泰二

◎九州地方保護司連盟会長表彰
井上俊一　合屋晴之　柴田　桂
松嵜光則　渡辺裕江
宮﨑夏子（家族功労者）

◎福岡保護観察所長表彰
青井直信　加藤勝行
寺田美津子　溝上孝徳

◎福岡保護観察所長感謝状
力武克樹（協力雇用主）

◎福岡県保護司会連合会長表彰
上田裕子　久保田由美子　寺田達也
古田大八　山口靖子　渡部聡子

◎福岡県保護司会連合会長感謝状
（家族功労者）
森眞津美　増本照美

ひろば

「報恩謝徳の心」

第三分区　馬場　隆光

昨年、僧侶の大先輩より保護司のお話を頂きました。幼少の頃からソフトボールを通じて多々良校区の皆様には大変お世話になり、何かお役に立つ事が出来ればと考え、お引き受け致しました。

私は平成５年に住職となり約30年間、受けた恵みや恩に対して報いようと感謝の気持ちを持つ『報恩謝徳の心』で勤めて参りました。その経験を生かし保護司の活動の一端を担えればと思います。

自分自身、不安な事が多々ありますが、対象者の方の良き理解者であり、支援者であるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

「保護司として日々成長」

第六分区　佐藤　靖之

昨年９月から保護司を務めさせていただくことになりました。

私の父も以前保護司をしており、保護司の大変さというものを傍らで見ていて、いつも感じておりました。まさか自分に声がかかるとは思ってもおらず、正直驚きました。

現在、私は夜勤のある勤務をしており、また自分に務まるのかという不安もあり迷いましたが、生まれ育った地域のために少しでもお役に立てるものならと引き受けさせていただきました。

これから新任保護司として、焦らず気負わず対象者に寄り添い、対象者と一緒に悩み、解決策を考えることで自分自身も日々成長していきたいと考えておりますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

「精進料理」

総務部　椛島　成敏

私は精進料理を禅寺の修行中に学びました。禅寺での食事は動物性タンパクを食することが出来ず、野菜、豆腐などをうまく工夫して食べられています。

精進料理はただお腹がすいたから食すわけではなく、食事は自分の前に並ぶまでには、

「多くの人の手を経ていることに感謝しよう。自分は今この食事を頂けるほど日々精進しているかどうか反省しよう。空腹でもイライラせず好き嫌いをしないようにしよう。食事は命をつなぎ、健康な身体を保つための薬である。自分の役割とは何か、食事を頂くのは自分の目的を達成する為である。」

という精神のもとで精進料理をみなさまに食して頂こうと、福岡市や各企業様からの依頼があり活動させて頂いています。

私達は日々あたりまえのように食事をしていますが、一度この精神を噛みしめて食されてはいかがでしょうか。

分区日記　東風吹かば。

『社会を明るくする運動』作文選考会

第３分区　加藤　勝行

残暑厳しい夕暮れ時、いつもと違う集会所に３分区のいつもの顔が三々五々集まってくる。一日の仕事を終えホッとしてやってくる者、何かトラブルでもあったのか疲れた表情をした者など様々である。

今日は３分区の作文選考の日。小・中学校の児童・生徒から多数の作文を提出いただいた。まず学校別に担当校の保護司が３部ずつ選び、それを持ち寄り全員で選考する。作文を読み始めると、先ほどまでの和やかな雰囲気から、みんなの表情は真剣な眼差しに変わっていく。主観がたくさん集まればより客観に近づき、より公平で公正な選考ができると考えた。

どの作文も力作で、『社会を明るくする運動』について、様々な視点から考えたことや体験したことを、一生懸命文字に表し伝えようとする気持ちが伝わってきた。優秀賞に選ばれた作文は数少ないが、この取り組みの意義の大きさを感じている。

歓送迎会の時に皆で！

保護司異動

退任保護司（令和３年11月30日付）
第六分区　折居　秀行
永い間のご尽力ご苦労さまでした。

新任保護司（令和３年９月１日付）
第三分区　馬場　隆光
第六分区　佐藤　靖之

第三代会長の今林定信氏が、昨年10月31日に93歳で逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。「東風」の題字を揮毫されました。

博多にわか

「新　年」

ちょっと　あなたクサ　正月そうそう
何時まで寝とござ～と
あいた～　チャンと昨日から呑みすぎて　どうか～　年の明けたら　大トラ（寅）になっとる

箱崎ぼうすくてい

編集後記

一昨年発生したコロナ禍が東京オリンピックとパラリンピックの開催中にも猛威を振るい、９月に緊急事態宣言が出され、編集会議もアクリル板を隔てマスク越しの声はくぐもり、耳をそば立てながらも活発に意見交換を行いました。10月に入ってからはコロナ感染者数も減少し中旬には全国で宣言も解除されほっと一安心しました。

ご投稿を頂いた皆様には心から感謝申し上げます。おかげ様で無事に「東風」紙面を作成する事ができました。

コロナ禍終息の願いと皆様方の益々のご健勝祈願を込め、令和四年の初春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。

（松嵜）